禁転載　©朝日新聞社

The Asahi Shimbun JAPAN'S LEADING NATIONAL NEWSPAPER
2011年3月12日（土）
朝日新聞 速報号外

朝日新聞
ご購読のお申し込みは
0120-33-0843

首相、被災地を視察

「福島原発、状況把握したい」

菅直人首相は12日早朝、東日本大震災で大きな被害の出た宮城県や福島県など被災地の視察に首相官邸からヘリコプターで出発した。半径10キロ圏内の住民に避難指示を出している東京電力福島第一原子力発電所などを視察。首相は視察から官邸のヘリポートに戻った際、「改めて津波の被害が大きいと実感した」と厳しい表情で話した。

首相は出発前、「政府として全力を挙げて救済、復興に取り組んでいる。私はこれから福島原子力発電所に出かけ、現地の責任者ときちっと話をして状況を把握したい」と記者団に語った。

菅内閣は11日夜、原子力災害対策本部を開き「原子力緊急事態宣言」を発令。12日朝には福島第一原子力発電所から10キロ以内の住民の圏外への避難を指示。その後、福島第二原子力発電所についても半径3キロ以内の住民に避難を、3～10キロ以内の住民に屋内待機を指示した。両原発について、枝野幸男官房長官は12日午前の記者会見で「現時点で住民に健康被害を及ぼすような事態を具体的に想定する状況にはない」と述べた。

12日朝には緊急災害対策本部と原子力災害対策本部を相次いで開催。松本龍防災担当相は会議後、記者団に「（被災地には）食料、仮設トイレ、灯油、ストーブ、水をどう調達するかが一番だ」と語った。政府調査団を宮城、福島、岩手各県に派遣し、現地調査を始めた。